

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
9						感染管理システム	
9	1					患者一覧表示	
9	1	1				入院患者を対象に以下の一覧が表示できること。	
9	1	1	1			・ 菌検出患者	○
9	1	1	2			・ 菌検出未確認患者	○
9	1	1	3			・ 感染疑い患者	○
9	1	1	4			・ 感染報告書未作成患者	○
9	1	1	5			・ 抗菌薬超過患者	○
9	1	1	6			・ ICU部門報告未作成患者	○
9	1	1	7			・ 一時保存（入力画面が外来患者も対象とする場合は、外来患者も含まれる。）	○
9	2					入力画面	
9	2	1				登録した内容または訂正履歴を時系列に表示できること。 但し、検査結果簡易入力、分離菌ウイルス補足入力、患者予防策、病室予防策、マスタ保守画面は除く。	○
9	2	2				登録済みデータの参照・訂正・削除ができること。	○
9	2	3				登録した内容はファイル形式で出力ができること。	○
9	2	4				各入力画面は排他制御を行っていること。	○
9	2	5				各入力項目は必要に応じて必須入力項目の設定ができ、漏れがあった場合には注意喚起ができること。	○
9	2	6				新規作成時、入力途中で一時保存ができること。一時保存後は一時保存一覧に表示され、前回一時保存時のデータから入力再開できること。	○
9	2	7				操作に関する注意事項等をヘルプ表示できること。 また、当センター独自で作成したPDFファイルをヘルプ表示できること。	○
9	3					患者情報集中画面	
9	3	1				患者基本情報、診療データ（体温、CRP、WBCなど）、感染状況及び感染履歴、デバイス装着情報、手術・SSI情報、使用抗菌薬情報、検査データ及び感受性情報、経路別予防策状況が表示できること。	○
9	3	2				診療データはグラフ表示できること。表示期間を変更し再表示ができること。	○
9	3	3				検査データの細菌検体コメント、検出された分離菌及び分離菌毎の抗菌薬感受性が表示できること。	○
9	3	4				画面に表示している内容について、ファイル形式による出力ができること。	○
9	3	5				利用者ごとに注目する患者については個人管理ができること。また、個人管理中の患者については菌検出患者一覧で確認できること。	○
9	4					病棟マップ機能	
9	4	1				病棟マップ上で医療機関の病棟フロアレイアウトに沿った病室配置やその他設備（ナースステーション、トイレなど）を表示できること。病室内表示ではベッドの配置、入口、その他設備を表示できること。また全体⇔各病棟フロア⇔病室 の表示切替ができること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
9	4	2				マスタメンテナンス画面にて病棟マップレイアウトの追加、変更ができること。	○
9	4	3				全体表示では、各病棟フロア毎に患者数、監視対象分離菌の検出状況を表示できること。	○
9	4	4				各病棟フロア表示では、監視対象菌の検出状況、感染・保菌状況等を表示できること。	○
9	4	5				時系列表示機能により、過去に遡ってベッド配置や菌検出及び感染状況の遷移を視覚的に把握できること。	○
9	4	6				病棟フロアマップ表示では、病室単位または患者単位で経路別予防策（接触・飛沫・空気等）を任意で設定／解除できること。設定した予防策情報は病棟フロアマップと病室マップに表示され、職員への注意喚起ができること。さらに各病棟フロア毎の予防策設定状況を一覧で表示できること。	○
9	4	7				患者単位の経路別予防策については、分離菌ウィルス・検査材料・予防策をマスタ設定することで、検査情報連携時に自動的に予防策が設定できること。	○
9	4	8				経路別予防策については検索ができ、ファイル形式による出力ができること。	○
9	4	9				病棟フロアマップは、ファイル形式による出力ができること。	○
9	5					感染源経路探索機能	
9	5	1				基準として選択した患者と同室患者の移動情報を表示し、さらに同室期間を同じ色で示すことで視覚的に把握できること。	○
9	5	2				基準として選択した患者と接触した患者（同室歴のある患者）を一覧で表示し、接触時間などを把握できること。	○
9	5	3				基準として選択した患者に複数の入院歴がある場合、前後の入院期間の同室患者情報を表示できること。	○
9	5	4				画面に表示した情報はファイル形式による出力ができること。	○
9	5	5				選択した時点での病棟マップを表示し、視覚的にベッド配置を把握できること。	○
9	5	6				病棟マップからダイレクトに感染経路探索ができること。	○
9	6					アウトブレイク表示機能	
9	6	1				検出された監視対象菌分類に対し、病棟単位に注意レベル・警告レベルの2段階の閾値をアラート表示条件値として設定できること。条件値として発生患者数または発生率のどちらかを選択できること。また条件値は変更できること。	○
9	6	2				閾値に達した病棟は、自動的にアラート表示できること。また、集計対象として院内・持込区分と感染・保菌状態を指定することができ、院内のみ又は感染のみ等、条件を絞って表示できること。	○
9	7					感染疑い患者表示機能	
9	7	2				条件値（検体、体温、白血球（WBC）等）を設定でき、条件に一致した場合にBSI、UTI、VAP等の感染疑い患者としてピックアップができること。	○
9	7	3				患者の感染疑いを個別に対象外登録、また対象外取消ができること。	○
9	8					デバイス感染情報入力	

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
9	8	1				デバイス種別毎に血流感染症（BSI）・尿路感染症（UTI）・人工呼吸器関連肺炎（VAP）の患者感染情報の入力・訂正・削除ができること。	○
9	8	2				患者の感染日・各種分子情報を入力して確定することで、デバイスデイズによる感染率の分子として自動処理できること。	○
9	8	3				入力された内容は、ファイル形式に出力できること。	○
9	9					手術/SSI情報入力	
9	9	1				手術情報及びSSI情報の入力・訂正・削除ができること。	○
9	9	2				入力された内容は、ファイル形式に出力できること。	○
9	10					検査補足情報入力	
9	10	1				患者の検査情報に対して、院内/持込の入力ができること。	○
9	10	2				患者の検査情報中のウィルス細菌情報に対して、陰性/陽性、コンタミネーションの入力ができること。	○
9	11					デバイス設定機能	
9	11	1				患者個別のデバイス装着状況の設定ができること。	○
9	11	2				デバイス装着情報は医療情報システムから連携できること。	○
9	11	3				挿入届の入力と出力ができること。	○
9	11	4				CV挿入時のマキシマルバリアプリコーション順守状況が入力できること。	○
9	12					デバイス一括設定機能	
9	12	1				デバイス装着状況の設定が病棟・月別に一括設定できること。	○
9	13					院内分離菌感染状況管理機能	
9	13	1				データ連携で取り込んだ分離菌の感染状況を、「未確認」「保菌」「感染」のステータスで管理できること。保菌を確認した場合や、感染症を発症した場合、該当する状況を手動で選択することにより、ステータスを変更できること。	○
9	13	2				データ連携で取り込んだ分離菌の感染状況をマスタ設定により監視対象菌分類毎に「保菌」「感染」のステータスに自動的に設定できること。	○
9	13	3				感染状況は、分離菌情報一覧・患者情報集中画面・病棟MAP等から確認できること。	○
9	14					分離菌非表示機能	
9	14	1				分離菌を検出した患者一覧から、予め設定した分離菌非表示条件の合致状況が確認ができること。一覧表示内容はファイル形式に出力できること。	○
9	14	2				分離菌非表示条件に合致した分離菌を対象とし、自動的に非表示処理ができること。若しくは任意患者を選択し手動により非表示処理もできること。	○
9	14	3				分離菌非表示条件は、対象の分離菌や検体ごとに最後の検査からの経過日数や菌が検出されない連続回数を設定できること。	○
9	14	4				非表示を行った後でも、院内分離菌再表示画面より再表示の処理を行うことで表示状態に戻すことができること。	○
9	15					院内感染症発生報告	
9	15	1				感染症発生患者に対して、菌毎に院内向け感染報告書（当社指定書式）が作成できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
9	15	2				作成した感染報告書は感染報告書検索画面で検索し訂正・削除ができること。また検索結果一覧はファイル形式による出力ができること。	○
9	16					検査結果簡易入力	
9	16	1				データ連携で取り込む分離菌以外に患者の検査結果の入力ができること。また入力した検査結果は訂正、削除ができること。	○
9	17					感受性パターンチェック機能	
9	17	1				分離菌毎に各患者の薬剤感受性パターンをチェックし、ナンバリングができること。	○
9	18					患者検索	
9	18	1				以下の患者検索ができること	
9	18	1	1			・デバイス関連患者検索 デバイス装着患者、感染者の検索ができること。	○
9	18	1	2			・デバイス感染情報検索 デバイス感染者（BSI、UTI、VAP、VAE）の情報をまとめて検索ができること。 また、デバイス感染（BSI、UTI、VAP、VAE）それぞれでの情報の検索ができること。	○
9	18	1	3			・SSI関連患者検索 手術実施患者、SSI患者の検索ができること。 術前と術後にオーダした抗菌薬も検索できること。	○
9	18	1	4			・抗菌薬関連患者検索 抗菌薬使用患者に対し、分離菌の検出情報を監視対象菌・検体で絞り込んで表示できること。 また、投与開始、終了日前後の設定期間内に有効な病名を検索ができる。	○
9	18	1	5			・抗菌薬使用履歴検索 抗菌薬の種類や薬剤別に日ごとの投与量を時系列に表示できること。 また、投与開始、終了日前後の設定期間内に有効な病名を検索ができる。	○
9	18	1	6			・院内分離菌患者検索 検体別の分離菌検出患者の検索ができること。 また、検査情報とその感受性検査結果が一覧でファイル出力できること。	○
9	18	1	7			・検査材料検索 検査の実施、実施した検体材料、検体材料から分離された検出菌、またはウイルス検査結果、検体検査結果の検索ができること。	○
9	19					統計機能	
9	19	1				デバイス関連	
9	19	1	1			BSI・UTI・VAPのサーベイランス感染率、感染件数、デバイスデイズの自動集計ができること。	○
9	19	1	2			病棟単位にBSI、UTI、VAPの感染率、使用比をJHAIS等の値と比較できること。	○
9	19	2				SSI関連	

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
9	19	2	1			SSIの感染率、発生数、発生率をリスクインデックス別に自動的に集計できること。また集計単位として手技別、医師別、年代別、病棟別が選択できること。	○
9	19	2	2			SSI分析ではSIR（標準化感染比）の表示ができること。	○
9	19	2	3			SIRでは、JHAIS等の指標と比較できること。	○
9	19	2	4			JHAIS提供の指標値ファイルの取込ができること。	○
9	19	2	5			マスタメンテナンス画面にて、手術手技・指標ごとの手術時間のカットオフポイント、リスクインデックスごとのSSI発生率の設定ができること。	○
9	19	2	6			指標変更後に期間を指定して、リスクインデックスの再計算ができること。	○
9	19	3				抗菌薬関連	
9	19	3				医療情報システムなどから取り込んだ抗菌薬使用情報より以下の統計分析ができること。	
9	19	3	1			・抗菌薬略号別の使用密度（AUD、DOT、AUD／DOT）	○
9	19	3	2			・薬剤別（総使用量(g)、使用人数、1人当たりの使用量(g)）	○
9	19	4				薬剤感受性率（アンチバイオグラム）	
9	19	4	1			薬剤感受性率（アンチバイオグラム）の集計結果について、指定した感受性率を超えた箇所を色分けして表示できること。	○
9	19	4	2			分離菌毎、分離菌・検査材料毎の感受性率を月別または年別に集計できること。	○
9	19	5				院内分離菌関連	
9	19	5	1			医療情報システムなどから取り込んだ院内分離菌情報より、対象期間・分離菌を指定して、病棟・診療科・検体・年別・月別等で新規検出数、検出数、検出患者数、総検出数、新規検出率等を集計できること。	○
9	19	5	2			対象期間・分離菌を指定して、病棟・診療科・検体・年別・月別等で2次元クロス集計ができること。	○
9	19	6				統計分析	
9	19	6	1			患者ラウンド、手術SSI入力、感染状況入力について、病棟別、診療科別、月別の件数等の集計ができること。	○
9	19	6	2			集計結果が0件の行または列を非表示にするか否かの設定ができること。	○
9	20					針刺し切創・皮膚粘膜曝露	
9	20	1				針刺し切創・皮膚粘膜報告書を使用する事により、職業感染制御研究会から発行されているエピネット日本版報告書式（A:針刺し・切創報告書（一般）、B:皮膚・粘膜曝露報告書（一般）、AO:針刺し・切創報告書(手術部)、BO:皮膚・粘膜曝露報告書（手術部））が出力できること。 但し、入力項目は固定とする。	○
9	20	2				登録した報告書について、集計できること。	○
9	20	3				針刺し切創・皮膚粘膜曝露報告書（確認が必要な報告書）の一覧を表示できること	○
9	21					職員検診・接種一覧機能	

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
9	21	1				職員の検査項目毎の抗体検査結果と、最大3回分のワクチン接種情報が管理できること。また管理内容はファイル形式による出力ができること。	○
9	21	2				職員の抗体検査結果は医療情報システムからの連携またはファイル形式での取り込みができること。	○
9	21	3				検査項目、ワクチン、判定値の追加・変更・削除ができること。	○
9	21	4				免疫判断、接種状況も管理できること。	○
9	21	5				案内状の出力ができること。	○
9	22					手指衛生管理機能	
9	22	1				衛生材料の使用実績を画面で入力できること。	○
9	22	2				登録した衛生材料から、使用量、1000患者あたりの使用量、患者一人当たりの手洗い回数を自動集計できること。また分離菌新規検出状況、デバイス感染率等との相関関係を表示し、ファイル形式による出力ができること。	○
9	23					院内環境ラウンド支援機能	
9	23	1				医療機関別の環境ラウンド項目を設定し、環境ラウンドチェックシートの作成ができること。	○
9	23	2				環境ラウンドチェックシートでは、ラウンド実施者、部署、実施期間、ラウンド結果を選択形式で入力することができ、写真の添付や備考・総評コメントの入力ができること。また記録内容はファイル形式による出力ができること。	○
9	23	3				環境ラウンドチェックシートの結果を時系列表示できること。	○
9	24					患者ラウンド支援機能	
9	24	1				患者ラウンド予定患者について、ラウンドに必要な情報（手術情報、薬剤情報、分離菌検査情報、デバイス情報、ラウンド履歴）を集約したラウンドシートのファイル出力ができること。	○
9	24	2				患者ラウンド結果で次回予定日を登録すると、自動でラウンド予定の作成ができること。	○
9	24	3				患者ラウンド結果（指示、コメント等）の記録と写真添付ができること。また、記録内容をファイル形式で出力できること。	○
9	24	4				患者ラウンドのコメントはテンプレートより選択できること。	○
9	24	5				ラウンド結果はラウンド結果検索画面で検索できること。なお、コメント登録内容はキーワード検索ができること。	○
9	24	6				登録した患者ラウンドは医療情報システムへ送信できること。	○
9	25					コンサルテーション	
9	25	1				連絡事項をやり取りできること。	○
9	25	2				届いた連絡事項は検索画面で検索できること。	○
9	26					掲示板	
9	26	1				情報共有のために、医療機関で作成したファイル等を掲示できること。	○
9	26	2				掲載期間を設定できること。	○
9	26	3				文書ごとに閲覧状況（既読・未読）を確認できること。	○
9	26	4				掲示内容について、コメントの登録ができること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
9	26	5				管理者は掲示板フォルダの新規作成・削除ができること。また、フォルダ毎に閲覧範囲（権限グループ、所属、職員個別）を設定できること。	○
9	26	6				キーワードや掲示期間を指定して掲示物の検索ができること。	○
9	27					各種報告機能	
9	27	1				厚生労働省 院内感染対策サーベイランス（JANIS）へ以下の報告用データを作成できること。	
9	27	1	1			・手術部位感染（SSI）部門	○
9	27	1	2			・全入院部門報告	○
9	27	1	3			・集中治療室（ICU）部門	○
9	27	2				日本環境感染学会（JHAIS）へ以下の報告用データを作成できる。	
9	27	2	1			・手術部位感染サーベイランス部門	○
9	28					医療情報システムとの連携	
9	28	1				医療情報システムと、分離菌検査情報、薬剤情報、デバイス情報、手術情報、バイタル情報（体温等）、検査値情報の連携ができること。また、分離菌検査情報、薬剤情報については外来患者の連携ができること。	○
9	29					E-ラーニング機能	
9	29	1				教材は、SCORM規格に対応したコンテンツや医療機関で作成したファイルや動画等を登録できること。（但し、avi、wmv、mp4（H.264以外）形式のファイルは除く。）	○
9	29	2				権限により教材の搭載、対象受講者等の教材の設定、受講対象職員の受講状況検索ができること。	○
9	29	3				教材単位に受講開始日と受講終了日を設定し自動配信できること。	○
9	29	4				教材を受講できる最大人数や時刻帯などの配信制限ができること。	○
9	29	5				医療機関独自のテスト・アンケートを作成できること。	○
9	29	6				テストは合格基準点と配点を設定でき、合格・不合格を確認できること。	○
9	29	7				作成したテスト・アンケートは集計できること。	○
9	29	8				教材はフォルダ毎に管理する事ができること。	○
9	29	9				第一階層のフォルダに管理者を設定することができ、設定された管理者はフォルダ内の教材の編集や受講状況等を確認できること。	○
9	29	10				教材に関連する資料等をライブラリとして登録できること。	○
9	29	11				集合研修の出席者データをe-Learningシステムに取込み管理できること。	○
9	29	12				取込んだ出席者データを元に出席者（欠席者）へのみテスト・アンケートの配信や、フォロー教材を配信できること。	○